

第19回Wリーグ プレーオフ・ファイナル試合後

記者会見要旨



JX-ENEOSサンフラワーズ (レギュラーシーズン 1位)

■佐藤 清美 ヘッドコーチ

Q. ファイナルを振り返って

A. 出だしはアウトサイドのシュートが決まらず、思ったような展開ができませんでしたが、その分、ディフェンスでしっかり守ってくれました。前半で 17 点のリードがあり、通常レギュラーだと「逃げないで向かって行け」と言いますが、このファイナルは「点差をしっかり守って優勝することが一番だ」とコートに送り出し、勝つことができ良かったと思います。

■#0 吉田 亜沙美 キャプテン

Q. ファイナルを振り返って

A. 今日もう少し重いバスケットが入ってしまいました。私自身、緊張していたので、それで重くなってしまったと思います。それでも徐々に、JX-ENEOS のバスケットができたのではないかと思いますし、今日もですけどディフェンスが崩れずに徹底してできたのではないかと考えています。結果的に 10 連覇を達成できましたが、それは選手だけでなく応援してくださる方々、会社の方や多くの関係者も含めてサポートしていただいたお陰だと思っています。プレーを頑張るしかありませんが、少しでも恩返しができたのではないかと考えています。

■#11 岡本 彩也花 選手

Q. ファイナルを振り返って

A. 我慢する時間帯が長く、相手に得点させる場面が多くなりました。それでもチームとして、ディフェンスが良かったのが勝因になったと思います。

■#10 渡嘉敷 来夢 選手

Q. ファイナルを振り返って

A. 昨日に引き続き、チームとしてディフェンスが良かったので、そこは勝てた理由の一つかなと思います。どんなに苦しい場面でも、ディフェンスで崩れることがなかったので、勝つことができましたと思います。

■#52 宮澤 夕貴 選手

Q. ファイナルを振り返って

A. いつもデンソーと試合をする時はリバウンドで負けてしまうことが多いのですが、スタッツを見ると今日はディフェンスリバウンドで勝っていますし、トータルの本数でも勝っています。我慢する時間帯も、リバウンドが取れていたのが勝因につながったかなと思います。オフェンス面では重い展開でしたが、最後はインサイドで勝負することで、私たちのバスケットができたと思います。

第19回Wリーグ プレーオフ・ファイナル試合後

記者会見要旨



デンソー アイリス (レギュラーシーズン 2 位)

■小嶋 裕二三 ヘッドコーチ

Q. ファイナルを振り返って

A. JX-ENEOS に、優勝おめでとうございませうということと、10 連覇という偉業を達成されたことに心より賛辞を贈りたいと思います。シャンソンが 10 連覇を達成された時、私は観客席にいました。今日はある意味、当事者になってしまい、少し複雑な思いです。ゲームとしては出だしのマズまずさがあったと思います。ディフェンスはかなり良かったと思いますが、逆にオフェンスはまったくダメで、その理由は全くペイントアタックできなかったということなので、力の差というか、気持ち差を感じた試合でした。ただ、最後の第 4Q は諦めずに戦ってくれたということが、今までのチームと違う成長の過程なのかなと感じました。

■ #8 高田 真希 キャプテン

Q. ファイナルを振り返って

A. 前半なかなか自分たちのバスケットができなかったこと、その時間帯に自分自身、プレーでチームを引っ張ることができませんでした。後半は追い上げることができたのですが、だからこそ、前半のところ引っ張ることができなかったことが負けた原因だと思っています。

■ #13 伊集 南 選手

Q. ファイナルを振り返って

A. 今、ヘッドコーチからも私たちのペイントアタックが少なかったというコメントがありました。その際、自分が突破口を開くように、積極的に行くべきで、どんなにリズムが悪くても行くべきだったのですが、それができなかったところが敗因になったと思います。私自身、今シーズンはケガで離脱し迷惑をかけることがあったのですが、その分、下級生たちが頑張ってくれて、彼女

たちのレベルアップにも繋がったと思います。そのような心強さを感じられたシーズンだったので、戻ってくることができたプレーオフであったり、ファイナルでは自分の役割をもう少し果たしたかったというのが正直な気持ちです。

■ #12 赤穂 さくら 選手

Q. ファイナルを振り返って

A. 今日の試合は前半が悪くて、シュートも入りませんでした。自分の持ち味である、オフェンスリバウンドに飛び込んで、そのままシュートを決めるというプレーができませんでした。後半は少し持ち直すことができましたが、前半の出来が勝敗に結びついてしまったと反省の気持ちが強いです。

第19回Wリーグ プレーオフ・3位決定戦 試合後

記者会見要旨



トヨタ自動車 アンテロース (レギュラーシーズン 3位)

■ジェームス・ダンカン ヘッドコーチ

Q. 3位決定戦を振り返って

A. “クレイジー”で、劇的な試合だったと思います。私たちは、「諦めないチーム」だと言い続けてきましたが、今日の試合がその例になったのではないのでしょうか。ゲームの終盤、疲れも出てイージーシュートを落としてしまう場面はありましたが、それでも「何がなんでも絶対に勝つ方法を見つけて勝利するんだ」という気持ちがあったのでこの結果につながったと思います。私たちのチームらしいカラーを出して、見事に勝利をつかむことができました。

#7 水島選手は前半にアクシデントがありましたが、それでも残りの1分から6得点するような素晴らしい活躍をしてくれたことが嬉しいです。シン（#1 大神選手）に関してはどう評すればいいでしょうか。スティールや得点（本人からはターンオーバーという言葉が聞こえましたが）など、いろいろなプレーがあった中で、本当に正しいマインドセットで戦ってくれたと思っています。シンは日本の女子バスケットボールに大きく貢献した、本当に偉大な選手です。彼女の引退試合が、このような形で終わることができて良かったと思っています。

■#7 水島 沙紀 選手

Q. 3位決定戦を振り返って

A. 昨日負けてしまって、自分たちが目標にしていた「優勝」には届きませんでした。今日はチームの勝利はもちろん、シンさんのために絶対に勝とう、という気持ちで臨みました。ただ、少し気持ちが入り過ぎて、途中は少しうまくいかなかったところもあったと思います。試合に出ているメンバーも、ベンチのメンバーも、全員が勝つという目標を諦めずにできた結果が、この勝利につながったと思います。勝って本当に良かったです。

■#1 大神 雄子 キャプテン

Q. 3位決定戦を振り返って

A. 「バスケットって何が起るかわからない」というのを、自分たちが挑戦しながら、自分たちで証明できた試合になったと思います。もし自分が（今シーズン前に）引退していたら、今日のこの“バスケットボールの楽しさ”を味わえなかったんだなと思ったり、もう味わうことがないんだなと思ったり、今はさまざまな感情が湧いています。もがきながらも「最後まで諦めない」という思いがこの結果につながりました。これが今シーズンのチームカラーだったと思っています。リードしても振り切れないとか、追いかけて逆転するということに波がありましたが、そのチームカラーを全員が理解し、こういう形で終えられたのも、今シーズンのチームを表わしていると思います。

自分はチームメイトや、本当にたくさんの方々に支えられて20数年の選手生活を過ごすことができました。昨日から、ラストじゃないと思いつつも、いや最後なんだと考えたり、結構、自分の感情に振り回された時間を過ごしました。今回、自分が引退すると表明したので、チームに迷惑をかけてしまったかもしれません。それでも最後、こういう形で送り出してもらえたので本当に感謝しています。

第19回Wリーグ プレーオフ・3位決定戦 試合後

記者会見要旨



シャンソン化粧品 シャンソンVマジック (レギュラーシーズン 4位)

■ 丁 海鎔 ヘッドコーチ

Q. 3位決定戦を振り返って

A. 本当に今日の試合は悔しいです。ただ、こういう試合もあります。この試合が（今シーズンの）最後の試合になりますから、もう挽回する機会がありません。それが残念です。でも、感謝しています。何に感謝しているのかというと、私たちの選手が、この試合をケガがなく終えられたことを神様に感謝したいと思います。選手たちはみんな、最後の最後まで精一杯頑張ってくれました。選手たちにも感謝しています。ロッカールームで選手たちに話をしました。言葉になっていなかったかもしれませんが、「ありがとう」という気持ちを伝えました。

Q. プレーオフ全体の印象は？

A. クォーターファイナルの富士通戦は簡単ではありませんでした。皆さんがご存じのように相手には良い選手がたくさんいますし、私たちの実力だけで勝ったわけではありません。運も味方になってくれたので勝つことができたと思っています。昨日はJX-ENEOSと対戦しました。実力差があって負けましたが、第1Qは同点だったのです。それは満足しています。いつか同じような内容で第4Qまでできるようになりたいですし、いつか勝てると思っています。

■ #6 本川 紗奈生 キャプテン

Q. 3位決定戦を振り返って

A. 昨日と同じように、前半は自分たちのほうが良くて、流れをつかんでいたと思います。それが、やはり自分たちの課題である後半に、どんどん落ちてしまって、特に自分が……それがすごく悔しくて……丁ヘッドコーチは笑顔を見せてくれていますが、この責任は自分が次にに向けてステップアップすることでお返ししたいと思います。（この結果を受けて）もっともっと、自分が成長していかなければならないと思っています。

■ #28 落合 里泉 選手

Q. 3位決定戦を振り返って

A. 一番は悔しい気持ちです。それでも今日は、10人の選手しか動けない中、トヨタ自動車という強豪を相手にこのような試合ができたのは、この1シーズンを通して、チームも自分も少しでも成長できたのかなという気持ちです。悔しさはありますから、また来シーズンもう一度頑張って、この悔しさを晴らさなければいけないと思っています。